

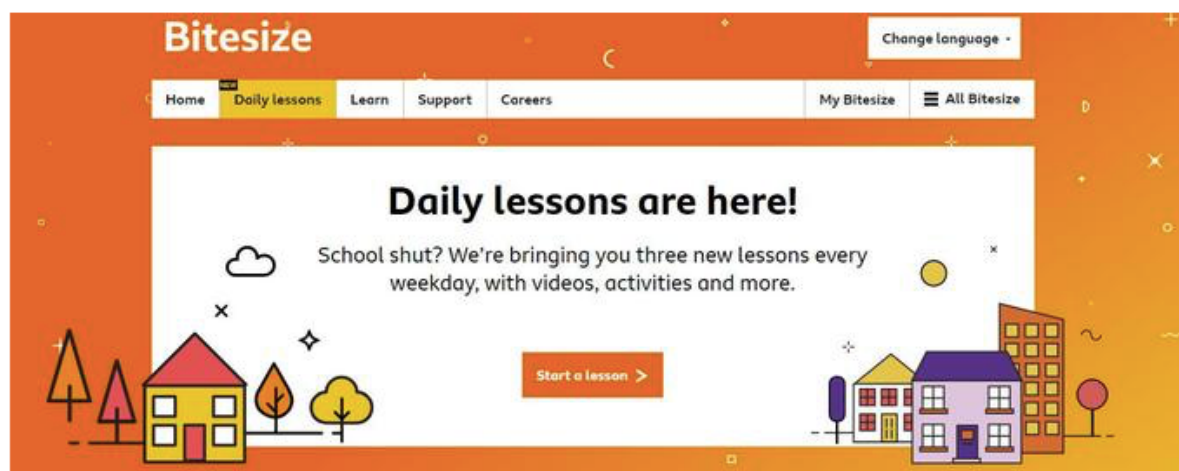
パンデミック (Covid-19) 下の英国の子どもたちの学習

アルダーマン・ホワイト ランゲージスクール 今田里佳

英国では、3月23日夜、ボリス・ジョンソン首相の緊急スピーチにより、英国全土においてコロナウイルス感染拡大を抑制するための外出自粛が要請されました。外出が認められるのは、必要最低限の買い物、一日一回の運動、医療上必要な場合、真に必要な通勤目的に限定されました。また、生活必需品以外を扱う商店や施設は閉鎖し、3人以上が公共の場で集うことや、結婚式等を含む社会的行事を中止すること、もしこの要請に従わない場合には、警察は罰金や集会の解散を含む対応を取ることが発表されました。

この要請に伴い、英国内の学校（大学も含む）が基本的に閉鎖されました。ただし、キーワーカー（保護者がNHS¹等の従事者）の子どもで必要な場合のみ学校（5歳から11歳の通う学校）が開校されています。

私の息子（10歳）が通う学校は、ファンデーションと1年から6年までの7学年約1000人の児童が通っている学校です。閉鎖されている現在20-30名のキーワーカーの子どもたちが通っているとのこと。それ以外の子どもたちには学校のホームページに学年ごと、1週間分の課題がその週の初めに掲示され、その課題を自宅で行うような形になっています。質問や成果などは担任とのメールのやりとりができるようになっています。ツイッターのページで先生方からのメッセージが届けられます。保護者にも週に1-2度校長から連絡のメールが入ります。またBBC（英国国営放送）では、平日毎日Bitesizeというレッスンを様々なメディアを通して展開しています。



更に、ホームスクーリングを応援するサイトなどが、情報、資料を提供しており、学習をサポートするための材料を手に入れることができます。最も難しいのは、子どもたちの気持ちをいかに学習に向けさせるか、ということです。どんな工夫をしてこの状況を乗り越えていくか、そのアイデアを提供してくれるフェイスブックのページ Family Lockdown Tips & Idea などもあり参考になります。

¹ NHS: National Health Service の略、イギリスの国営医療サービス事業

ヨーロッパ内で最もパンデミックでの死者が多い英国ですが、ロックダウン7週目に入って、人びとの気持ちにも疲れが見え隠れしている状況です。来週初めには、この規制の緩和が発表されるのではないかと、多くの人々が期待しています。そして6月1日ごろには学校が一部再開されるのではないかと予想されています。



著者の紹介: 今田里佳、ノッティンガム市在住。アルダーマン・ホワイト ランゲージスクール講師。マサチューセッツ州立大学大学院教育学研究科学校心理学プログラム修了 (M. Ed. & C.A.G.S.)。信州大学教育学部准教授、ノッティンガム大学マレーシア校講師など歴任。日本学校心理士会・日本学校心理学会会員

学校心理学からのコメント：英国での学校閉鎖時（休校中）の教育の様子が分かりました。一次的援助サービスとして、HPに学年ごと1週間分の課題が掲示され、それを家庭で行います。つまり一次的援助サービスの主な担い手は「教師と保護者」になります。質問や成果に関しては担任とのやりとりであり、二次的援助サービスもできます。校長から週に1回～2回の保護者への連絡メールを送るのは、教育の担い手として頑張っている保護者へのサポートとなります。そしてBBCが毎日メディアを通して3つのレッスンを子どもに提供しています。英国のレポートから、学校のサービスや情報・資料の活用により、休校中の子どもの学習意欲を継続させることが大きな課題であることにあたためて気づきました。（石隈利紀）